

コアシンポジウム 1

「炎症性腸疾患の最新治療戦略【5ASA から BIO/JAK までトータルマネージメントを考える】」

主司会 土屋輝一郎（筑波大学医学医療系消化器内科）

副司会 志賀 永嗣（東北大学病院消化器内科）

炎症性腸疾患（IBD）では新しい治療薬が次々と登場し選択肢が増えた一方で、薬剤選択に悩む場面が増えている。完治が困難である本疾患では、患者の一生を見据えた治療計画が重要であり、ライフイベントも含めたトータルマネージメントが求められる。本シンポジウムでは、治療薬選択や有効性のみならず、治療のエスカレーション/ディエスカレーション、治療効果の判定法、治療方針の決定プロセス、移行期医療、医療経済など多方面からの演題を広く応募する。